

授業科目	国際ビジネス論					単位	2		
履 修	選択	関連資格				ナンバリング	TO21508J		
開講年次	3・4 年	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP1-3 DP2-1 DP3-1				
担当教員	須藤 秀夫								
授業概要	国際ビジネスとは、企業の間国境を超えた取引(モノ・サービス、カネ、ヒト、情報の対価を伴うやりとり)のことをいう。グローバル時代にあつて国際ビジネスはますます重要性を増しており、また、社会人になって国際ビジネスに関わる局面は多い。従つて、学生時代から国際ビジネスに関する基礎的知識を得ておく意味はあろう。 本科目では、輸出・輸入の貿易取引、対外直接投資など種々の国際ビジネスの仕組み、リスクなど諸問題に関する基礎知識を扱う。また、国際ビジネスに関わる異文化の問題も学ぶ。 各事項に関連した現実の動きなどを、新聞報道などから随時紹介し解説する。								
学生が達成すべき行動目標	1. 貿易取引、対外直接投資等の国際ビジネスの基本的な仕組み、考え方(例えば、企業が海外進出するとはどういふことか、なぜ海外進出するの か)を、またよく使われる用語を理解できる。 2. 国際ビジネスの動向、それに関わるリスク、金融、法律、税金などの諸問題の意味を理解できる。 3. 国際ビジネス企業(多国籍企業)が国際社会にもたらすメリット・デメリットの概要を理解できる。								
達成度評価									
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考	
総合評価割合	70	0	20	0	0	10	100		
知識・理解 (DP1-1)			5				5		
知識・理解 (DP1-2)									
知識・理解 (DP1-3)	50		5				55		
知識・理解 (DP1-4)									
思考・判断 (DP2-1)	10		5				15		
思考・判断 (DP2-2)									
関心・意欲 (DP3-1)	10		5			10	25		
関心・意欲 (DP3-2)									
態度 (DP4-1)									
態度 (DP4-2)									
態度 (DP4-3)									
技能・表現 (DP5-1)									
技能・表現 (DP5-2)									
技能・表現 (DP5-3)									
具体的な達成の目安									
理想的レベル				標準的なレベル					
国際ビジネスの用語など基本的な知識をよく理解し、現実的な場面の問題を考えるときに、応用することができる。国際ビジネスに関する新聞などの報道を十分理解することができる。				国際ビジネスの基本的な知識を身に付け、それを人に説明することができる。					
授業計画									
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)	
1	国際ビジネスとはどういふものか、国際貿易はどのように始められるのか(契約に至るまで)。			講義		該当部分の復習。		60	

2	貿易実務： 国際貿易取引契約が結ばれた後、輸出業者・輸入業者間、さらには銀行を交えて、どのような取引がどのような書類を使って為されるのか。	講義 質問・コメント票にて質問等を受ける	該当部分の予習、復習	60
3	貿易実務： 国際貿易取引の決済、それに伴う外国為替取引はどのように為されるのか。	質問に答える 講義	該当部分の予習、復習	60
4	外国為替： 外国為替取引によって、輸出企業と輸入企業などは、どのように差損を蒙ったり差益を得たりするのか。	講義 質問・コメント票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
5	国際貿易の運輸(国際物流)等はどのように為されるのか。	質問に答える。 講義	該当部分の予習、復習	60
6	対外直接投資： 企業の国際化の局面として、対外直接投資とはどういうことか、貿易とどう異なるのか。	講義 質問・コメント票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
7	対外直接投資： 企業が対外直接投資するのはなぜか(動機)、最近の日本企業による対外直接投資はどのような動向なのか。	質問に答える。 講義	該当部分の予習、復習	60
8	技術提携： 企業の国際化の別の側面としての技術提携、プラント(大型機械設備)輸出とはどういうものか。	質問・コメント票にて質問等を受ける。 講義。 課題を提示する。	該当部分の予習、復習。 課題に取り組む。	60
9	国際ビジネスとリスク： 国際貿易に伴うリスクにはどのようなものがあるか。	質問に答える。 講義	該当部分の予習、復習。 課題に取り組む。	60
10	国際ビジネスとリスク： 企業が海外進出(対外直接投資)して事業を行う場合、進出先の国固有のリスクである「カントリーリスク」とはどういうものか。	講義。 質問・コメント票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
11	その他のリスク： 海外に進出して海外で事業を行う場合におけるその他のリスクとしてどういうものがあるか。	質問に答える。 講義	該当部分の予習、復習	60
12	デメリット(弊害)： 国際ビジネスを行う企業(多国籍企業)が進出先の国や世界にもたらすデメリットにはどのようなものがあるか。併せて、国際社会で重視されている企業の社会的責任(CSR)とはどういうことか。	質問・コメント票にて質問等を受ける。 講義	該当部分の予習、復習	60
13	メリット(恩恵)： 国際ビジネスを行う企業が進出先国や世界にもたらすメリットにはどういうものがあるか。	質問に答える。 講義	該当部分の予習、復習	60
14	国際ビジネスと金融： 国際ビジネスを行う企業はどのように資金調達しているのか。	講義 質問・コメント票にて質問などを受ける。	該当部分の予習、復習	60
15	まとめ	質問に答える。 講義	過去の学びを全体的に復習する。	60
16				
17				
18				

19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	授業で出てくる用語(信用状、直接投資、フランチャイズ、タックスヘイブン等)の多くは、学生にとって初めて聞くものですが、何回か聞いていれば、慣れてくるであろうし、それが大事です。できれば、新聞雑誌、TV番組などで国際ビジネスに関するニュースに触れておくと、国際ビジネスや用語にもなじみ易くなり、関心も増すでしょう。貿易会社はどういう仕事をしているのだろう、(例えば、サンリオが)海外に進出するとはどういうことだろう、といった基本的な事柄への関心があれば、勉強に取りかかりやすく(とっつき易く思え)、また、学び			
テキスト	プリントを配付する。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	貿易実務に関しては、次の書籍が、図や書類サンプルを載せていて、分かりやすいので勧めたい。 高橋則雄、木村雅晴ほか『マンガと図解で入門 貿易取引がよくわかる本』こう書房、最新版、約 1,400 円 その他、プリントに記載するなどして、随時指摘する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	・国際ビジネスの動きを伝える日本経済新聞、雑誌を読んだり、TVの番組を見たりしてほしい。 ・国際企業の歴史などを記した文献を読むことも、学生が国際ビジネスや国際企業に関心をもつうえで、有益であろう。 ・国内外のビジネスに関する基礎知識を得たい学生、将来、貿易や海外事業を行っている企業・団体に就職を考えている学生には、履修をぜひ勧めたい。また、本科目で扱う知識を問われるであろう「貿易実務検定」試験に挑戦してみるのも、自分の道を切り開くうえでは、有益であろう。			
達成度評価に関するコメント	レポートの内容、試験の一部への対応については、授業の中で説明する。			